

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホームゆうあい寺田		
所在地	京都府城陽市寺田乾出北45番地		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2692800044&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家族との絆を大切にすることを重視している。そのために、面会は1ヶ月に2回というように利用者と家族と事業者が一体となってサービスを提供している。

・「ピンピン コロリ」を目標に、毎日の体操と加圧トレーニングで下肢筋力を鍛え、最期の時までのお元気で過ごして頂けるようにしている。

・1階の小規模多機能型居宅介護事業所と、日中のレクリエーション等を一緒に過ごすことで、孤立感や閉塞感を持つことなく楽しく充実した時間を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幼稚園を改修して作られた当該ホームは、広い敷地に遊具なども残っており、住民の散歩コースにもなっています。「暖かい心、優しい手、そして笑顔」というキャッチフレーズを基に最期まで動いて元気に笑顔で過ごして貰えるように、職員の思いを一つにして日々の支援に取り組んでいます。将棋、花作り、読書、ピアノ等、趣味や好きな事を引き出し本人本位のケアに努めています。正月は必ず家族と過ごして貰い、家族の面会を多くとり、家族と共に利用者を支えるという姿勢にあります。また、地域からの多くのボランティアの来訪があり、利用者を取り巻く多くの人達とともに支援しています。また、地域の花植え活動や区民運動会、どんど焼きに利用者と共に参加したり、ホームで行う行事に保育園児が参加するなど地域との交流も深まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を唱和し、共有を図っている。	法人の理念を毎日朝礼で唱和しフロアにも掲示しています。「暖かい心、優しい手、そして笑顔を」というキャッチフレーズを常に意識しながら日々のケアにあたっています。毎月のケア会議で話し合ったり、ミーティングノートにより振り返り、確認の機会を持っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・行事には、地域の保育園と共に端午の節句や運動会等の行事を行い、交流を図っている。 ・民生委員と連絡を取り合いながら地域の小学校等の行事に参加している。	地域主催の花植えや区民運動会、どんど焼きに参加したり、ホームで行う端午の節句や運動会には保育園児が訪れ、一緒に楽しみながら交流を図っています。事業所主催の物忘れ予防教室には地域住民の参加があります。また50名の登録ボランティアがあり環境整備、踊り、園芸、体操、見守り等多くの協力があり地域との交流が深まっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防教室を開催し、地域貢献に勤めているを図っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「地域の拠点となるために」をテーマに会議を進める中で、いただいた意見をもとに運営委員会で話し合い、サービスの向上を図っている。	運営推進会議は、自治会副会長、社協、民生委員、主治医、城陽市職員、家族会代表、理事長等の参加の下に2カ月に1回開催されています。会議は年間のテーマを決め事業所からの状況報告と共に参加者から多くの情報や提案があり、出された意見は検討しサービスの向上に反映させています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	城陽市地域密着型サービス事業所連絡会を通して協力関係を築いている。	運営推進会議への参加時や議事録を直接届けた時、電話等で困難事例の相談をしたり、城陽市主催で始まった地域密着型サービス事業所連絡会を通して、連携を図っています。現在、地域密着型サービス事業所連絡会は参加事業所が持ち回りで担当しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や出入り口は、施錠せず常に開放している。職員に対しては「身体拘束ゼロ」研修を度初めに行い、ケアの向上に努めている。	年度初めには「身体拘束ゼロ」の研修会を開催し職員の身体拘束に対する認識の向上を図っています。参加していない職員は議事録や資料を確認し理解を深めるよう努めています。玄関は解錠し自由な暮らしの提供に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修には必ず取り入れており、虐待が見過ごされないように、毎日のミーティングで話し合い、意識を持ってケアにあたっている。			

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、サービス内容等について詳しく説明を行っている。家族の質問等については、その都度対応し理解と納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、必ずケア会議で話し合い、運営に反映させている。	面会時や事業所のイベント時、電話等で要望や意見を聞く機会が多くあります。出された要望等はケア会議やミーティングで検討し、内容によっては運営委員会に挙げ運営に反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング等で職員の意見や提案を聞き運営に反映させるよう努めている。	ケア会議やミーティング、日々の関わりで意見や提案が多く出され、意見は連絡ノートに記録し、会議で検討し出来ることは速やかに対応しています。内容によっては運営委員会で検討されることもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に会議等を行い、職員の就業環境を整えることに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量を考慮しながら、施設内研修、外部研修への参加を促し、介護に關しての意識と技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城陽市地域密着型サービス事業所連絡会や日本認知症グループホーム協会の研修に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず家族を交えて、本人の安心が確保できるようにカンファレンスを行い、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず家族を交えて、本人の安心が確保できるようにカンファレンスを行い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず家族を交えて、本人の安心が確保できるようにカンファレンスを行い、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるということを常に念頭に置きながら介護にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念を毎日唱和することが、共に支えあう関係を築くという意識を高めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係が途切れないように、知人や友人の面会を家族から促して頂いている。	近所に住んでいた知人や友人、習字やお茶の仲間等の来訪があり、関わりを支援しています。今後、家族の関わりと共に個別ケアで利用者の行かれていた教会や寺巡りも視野に入れて外出支援を実施していく予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話ができるように、場所の設定と雰囲気作りに努めている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても相談事があれば常に支援することを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族とも相談しながら対応している。	入居時や面会時の家族からの聞き取りの他、日々利用者に寄り添い会話をしながら要望を汲み取っています。家族と相談しながら本人の意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との信頼関係のもとで話しながら生活歴を聞き対応している。また、家族との連携に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の連絡ノートを活用しながら、一人ひとりの状況を共通理解し、チームアプローチに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録ノートから本人のニーズに合った介護計画を作成し、3ヶ月毎にモニタリングをしている。	家族などから聞き取った情報や利用者の意向を基に介護計画を作成し、3ヶ月に1回職員の意見を基に計画担当者がモニタリングを行い、6ヶ月に1回見直しています。年2回家族や看護師、計画担当者参加の下サービス担当者会議を開催し状況に応じて計画を変更する等、現状に即した介護計画になるよう努めています。全職員が利用者個々の計画を確認しながらケアが出来るよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとにし、担当者が気づいた点を連絡ノートで共有しながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にあわせた柔軟な対応に努めている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協や民生からの情報をもとに行事に参加し、地域の方々との交流を図りながら豊かな暮らしを楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望を大切にし、2週に1度の割合で往診をお願いしている。	入居時にかかりつけ医について家族からの希望を聞き、殆どの利用者が連携医に変更しています。2週間に1回連携医の往診があり、事業所の看護師と共に健康管理を行っています。かかりつけ医とは24時間連絡可能であり安心出来る医療体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職からの申し送りによって日常の様子を把握するとともに、医療ノートを使って情報の共有化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の様子にかかりつけ医に相談している。必要に応じてカンファレンスをする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とのカンファレンスを通して、終末期のケアについて事業所の方針を説明し共通理解に努めている。	入居時に重要事項に記載されている看取り指針を基に説明を行い入居後も年2、3回は家族に確認を取っています。実際に看取り経験もあり、今後も家族の希望により事業所の出来ることを伝え、医師や家族の協力を得ながら取り組んでいく体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を通して実践的な研修を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の参加メンバーと共に避難訓練を年に2回実施している。	年2回消防署指導の下、昼夜想定で避難訓練を実施し、運営推進会議時に行うことで地域の方と一緒に出来るよう配慮しています。一人ひとりの意識を高めるよう積極的に取り組んでいます。訓練実施の際は近所に案内をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼で理念を唱和することで、常に意識を持ちケアに当たっている。	職員は年に1回のプライバシー等の研修を受け理解を深めています。一人ひとりを大切に人格を尊重しながら支援することが大切であるという意識を持ち、日々のケアにあたっています。不適切な対応があればその場で注意をするよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの思いを押しつけず、選択してもらえるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人と話をする中で、希望を聞きながらその日の過ごし方を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部からメイクに来てもらい、おしゃれを楽しむ事ができるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることを把握し、本人に適した役割を職員と一緒にを行うよう努めている。	昼食は併設の小規模多機能事業所の調理室で作られ、利用者や職員と一緒に食事を摂り、楽しい食卓となっています。朝、夕食についてはホームで作っており、野菜を切ったり、皮を剥いたり、テーブルを拭くなど出来ることをして貰っています。また誕生日には赤飯入りの和風御膳、お節料理や巻き寿司、花見弁当、流し素麺等、季節に合わせ工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月に1度はカロリー計算等をして、栄養のバランス確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをすることで清潔を保持している。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録のチェックと確認をする。また、日頃から本人の残存機能を引き出すケアに努めている。	排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握し誘導することによっておむつや紙パンツはゼロとなり、殆どが布パンツになるなど自立に向けた支援がなされています。また皮膚の状態が改善されたり、顔の表情が変わる等、成果が上がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の観察と水分補給をすることや、朝食メニューには必ずヨーグルトをとり入れている。さらに、毎日のラジオ体操と、事業所独自の便秘予防体操を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の様子を見ながら、入浴日や時間帯を考慮し柔軟に対応している。就寝前に入浴する方もある。	週に3回は入浴出来るように支援しています。希望があれば夜間の入浴にも対応しており、現在3、4名の方が夜7時から9時の間に入浴されています。拒否のある場合は、無理強いせず日を改めて声かけをし、少なくとも週2回は入って貰うようにしています。時には柚子風呂等も楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人をよく観察し対応している。特に、スタッフの声かけに対する反応に注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録などを見ながら服薬支援をしている。特に変更時には、管理者やナースに確認、報告をし記録にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人とコミュニケーションをとり、将棋や花植えなど好きなことに取り組んでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や観梅など、月に1回程度、季節ごとの外出レクリエーションを実施している。本人の希望を把握し、実行できるような計画に努めている。	敷地が広く日々の散歩コースとなっており、ベランダや敷地内に作ったテラスでお茶を楽しんでいます。天気の良い日はドライブに行ったり、イルミネーション見学、観梅、初詣など家族に呼びかけ協力して貰いながら出かけています。	

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人との信頼関係を築き、希望や要望に応じることができるよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話により、本人の精神状態が安定できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事写真を廊下や共用の空間に貼ったり、季節に合った飾り付けをスタッフと一緒に作成し、季節感を味わいながら居心地良く過ごせるよう工夫している。	リビングには天窓があり明るさや換気の調整を行っています。また、毎朝ホーム全体の窓を開け換気に配慮しています。廊下には観葉植物が置かれテーブルには季節の花が生けられ季節感があり、壁には毎月の行事の写真や利用者の共同作品が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、ソファやテーブルの配置を工夫し、本人の状況に合った場所を利用できるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との絆を大切にするために、子どもさんやお孫さんの写真を飾ったり、お気に入りの品を飾ったりするように努めている。整理整頓に心がけ、居心地良くしている。	入居時に使い慣れた物を持ってきて貰うよう説明し、タンスや本棚、三面鏡、スタンド、本、布団、化粧道具、写真等、今まで使用していた家具や安心出来る品を持ち込んで貰っています。カーペットの上に布団を敷いて寝て貰うなどその人らしく過ごせるような配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人でも安心して歩けるように、居室や公共空間には障害となるものがないよう注意を払っている。整理整頓に心がけている。		